完走・ゴールインおめでとうございます！

春　田　節　子

今は昔の1982年，当時まだ千田町にあった広大文学部の原野先生の研究室のドアの前で，私はしばらくウロウロしていました。「古フランス語がご専門」ということしか知らないではじめてお目にかかるのは，(見かけによらず)シャイな私には大変な決心が要ることでしたから。

しばらくためらった末ノックして，ドアを開けてくださった原野先生になんとか自己紹介をして，古フランス語を学んでみたい，とたどたどしく申し述べました（でも，英文専攻だし，軽くあしらわれて追い返されちゃうかも…)。さて，原野先生のリアクションは，と緊張してまちかまえていますと，先生は，「まあおかけなさい。コーヒーでも入れましょう」。どんなにホッとしてうれしかったか，今でもあのときのことはよく覚えています。というわけで，原野先生は，古フランス語の，私の「おししょうさま」なのです。

よくわからないことの成り行きで，子連れ単身赴任などということをして，しかもありがたいことに総合科学部外国語講座で助教授などということをさせていただいていた7年半のあいだ，毎週2回，火曜日の大学院のお授業と土曜日の読書会，さらには夏休みの合宿にも参加させていただいた時間は，仕事と育児（これも相当楽しかったのですが）から学生にもどったような気持ちで，絶好の気分転換にもなり，おおいに助けていただきました。

Chrétien の *Erec et Enide*, Marie de France の *Lais*, Thomas の Tristan 断　片，Villehardouin の *Conquête de Constantinople*，そして Le Roman d'Eneas, *Châtelaine de Vergi* など，次から次へと原語で読むという超豪華な体験を満喫。クラスメート（?）の当時院生の皆様も，暖かく仲間に入れてくださって，いろいろ教えてくださいました。週末に広島に現れて，土曜午前中はコドモたちとお留守番，夏の合宿にも子連れで参加したりしていた私の配偶者さんも，理解があるというかキトクなヒトです。彼の原野先生観は，「うーん，俺より紳士だ…」先生が

運転する車に同乗してごらんなさい，考え変わるかも。彼が仕事で合宿に来れなかったとき，ウチの（男の）子たちをお風呂に入れてくださったのは，原野先生でした。

東京に戻ってからも，夏休みの合宿に参加させてもらったり，学会などで，先生，そして同窓の皆様にお目にかかるのがとても楽しみでした。おかげさまで，ウチの院生たちにも，「中世やるなら，古フランス語も！私のおししょうさまは原野先生だっ！」とかおお威張り（?），学生たちもつられて篠田先生のお授業をとっているようです。最近は学会などで原野先生に写本を見せていただいた，などとうれしそうに報告してきます。私も今年（2005），Utrecht のアーサー王学会でひさしぶりにお会いできて，数人の方々とお食事をご一緒させていただき（ご馳走様でした），遅い夜が苦手な私は早めに帰していただいて，ありがたかったです（やっぱり紳士か ?）

人生，長生きしていれば，何度も壁を乗り越えて進んでいかなければならないし，コワくても，対人関係苦手でも，ドアをノックすることが大切だ，というのが私の実体験で，その結果がとてもハッピーだったのが，今はムカシ，1982 年の原野先生の研究室前のできごとでありました。当時の院生の皆様が，現在はベテラン先生，そしてその分私も教員生活のゴールもまじかな今日この頃，一足先に広大でゴールインなさる原野先生は，うらやましくて，ますます尊敬！先生のことですから，きっと軽やかに壁を跳び越えて，さらなる活躍を続けていかれることと期待しております。これからも，よろしくお願いします！